



よこと館だより



Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草④

∞∞ セイロンの旅1 ∞∞



11歳正義君 得度式

8月末、機会があって南アジアのスリランカを1週間旅する機会がありました。「スリランカ」とは、昔は「セイロン」と呼ばれ、世界的に評価の高いセンロンティーの産地です。インドの先端、コモリン岬の南、インド洋に浮かぶ熱帯の島国で、インド大陸と踵(きびす)を接する地勢的な影響からインドとは古代から民族的、政治的、文化的な影響を受ける関係にありました。3世紀にインドから仏教が伝来し、5世紀にかけて仏教文化が花咲きました。

その頃から幾多の変遷の歴史を経て5世紀の岩山上の宮殿遺跡シーギリアロック、近代まで熱帯のジャングルの奥に眠っていた11世紀の首府ポロナワル、15世紀遷都されたキャンディなど6つある世界遺産の内3カ所を今回訪問する事ができました。16世紀以後スリランカはポルトガル、オランダそして英国の植民地支配を受け1948年独立を果たしました。

なぜ今回スリランカなのか、幾つかのキッカケ・動機があります。私の古い友人足利正哲氏は八王子の大きな法人、高齢・保育・障害・救護等の事業に取り組む「多摩養育園」の理事長で、戦後福祉事業を起こされた雲龍寺住職・故足利正明師のご子息です。私が至誠老人ホーム(養護)の生活指導員(当時の職名)時代から東社協の老人部会で一緒に活動をした仲間で、たまたま昨年度アウリンコと同時期、八王子で大規模医療型特養を開設するに当り情報の交換をしていました。

今回の旅は、彼の11歳の孫、正義君がスリランカの仏教で戒律を重視する上座部仏教の得度をする事がひとつの目的でした。現雲龍寺ご住職正尊師は、正哲氏のご子息で、6歳の時にスリランカで得度した事跡を踏まえ、今回孫が11歳で得度となったそうです。事業継承の営みですね。正義君の心境は分かりませんが、多数の僧侶が壇上に並び、厳かな式典でした。式の前には伝統の踊りとお祝いの賑わいが有り、伝統衣装を着て神妙に控える彼の姿に大きな荷物を背負う覚悟を見て取りました。そして地方の奥地にあるそのお寺には雲龍寺関係からの支援で建てられた学校が併設されており、そこに足利3代が描かれ、大きな国際貢献を見て取りました。

理事長 橋本正明



事業本部長メッセージ

10年間18万キロ余りを走った思い出いっぱい車とお別れの覚悟を決めて、新車契約をしたのは6月のこと。担当者によるとぎりぎり7月の生産、8月半ばに納車との説明。ところが西日本の大水害で広島工場が操業停止に。待ちに待って9月13日、約三か月かかってやっと納車と相成りました。過日、筑波山まで高速道路のデビューを果たしましたが、ハンドルもアクセルもブレーキも全部車が自分でやってしまう性能にはちょっと楽しみを削がれた感もありました。しかしだいぶ年をとった「自分より安全な運転」をする車に驚き感心しました。まだまだ、使い切れない機能も山ほどあるみたいで当分楽しめそうです!!

高齡事業本部長 旭 博之

事業本部情報

♥児童事業本部♥

大空の家は、子ども達が夢をもって進路を選択できる環境を整えてあげたいという願いから生まれた施設です。これからの時期、3名の中学3年生、4名の高校3年生は、いよいよ進路選択を真剣に考え始めます。特に高校3年生は、これから自分は施設を出てどうやって生活していくのかを考えなければなりません。就職するのか、専門学校や大学に進学するのか、でもどんな仕事は自分ではできるのか、大学で自分はなにが勉強したいのか、(進学して)卒業まで行けるかな? アパートの家賃はどのくらい? 給与はどのくらいあれば生活できる? 大学の費用は4年間でどのくらい必要? 一人で本当にやっていける・・・?次々と出てくる課題や不安が突きつけられてきます。

担当職員もそんな子ども達の姿を見ながら、自分達は何ができるのか頭を悩ませる季節です。できることは、一緒に悩み、一緒に考え、励ましながら、自分の夢に少しでも近づける進路を見つけていく手伝いをする事しかありません。来春、子ども達が笑顔で自信をもって次のステップに進めるよう担当職員を皆で支えて行きたいと思えます。

最後になりましたが、8月に国分寺市東戸倉に2つ目のグループホーム「キビタキハイム」が開設しました。どうぞ宜しくお願いします。(至誠大空の家 施設長 国分美希)

♥保育事業本部♥

至誠ひの宿保育園は定員130名、今年の4月に開設いたしました。木造耐火2階建の園舎を至誠第二保育園日野本町分園のあった日野1小の敷地に建てさせて頂きました。昨年の今頃、運動会の日に現場に大型クレーン車が初めて入り、太い柱を吊上げていくのをドキドキしながら来賓席で眺めていたのを思い出します。

さて、開設にあたりましては多くの方々にお力添えを頂きまして誠にありがとうございました。また開設後も橋本理事長を初め、児童・高齢各事業本部ほかの多くの皆様にご指導ご鞭撻頂き、また実際に足を運んで頂きました。保育事業本部の皆様には見学だけでなく保育・調理・看護などでお手伝いもして頂きました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。開設から半年がすぎ、園児、保護者ともに新しい環境に慣れてきた様子が見受けられます。

ところで、当園の特徴の一つは、職員の多くが保育事業本部の様々な園から異動してきたことです。秋に入り職員にも少し余裕が出てきたようで9月10月は異動前保育園等の運動会に出かけています。それぞれの職員は前所属園にお邪魔させて頂く際に新人職員を誘ってくれます。各園は大勢でお邪魔しても温かく受入れてくださり、ご迷惑とは承知しながらも各園の雰囲気作りや行事運営などを学ばせて頂く機会にもさせて頂いております。

法人の一員として今後とも「至誠ひの宿保育園」をよろしくお願いたします。

(至誠ひの宿保育園 園長 高橋滋孝)

♥高齢事業本部至誠ホーム♥

立川市柏地域福祉サービスセンター(以下、至誠柏ケアセンター)は、多摩モノレール泉体育館駅から西側へ徒歩5分くらい歩いた「都営柏町一丁目アパート11号棟1階」にあります。

開設は平成5年5月で、立川市で初めての公設民営型サービスセンターとして始まりました。開設当初は介護保険制度がまだ誕生しておらず、老人福祉法による措置制度によって①現在の一般デイサービス・定員15名、②現在の認知症デイサービス・定員7名、③通所入浴サービス事業・定員4名(寝たきり等の高齢者を送迎して施設入浴サービスを提供)の3事業でスタートしました。

今年で開設25周年を迎えた現在は、「居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)」「一般デイサービス・定員30名」「認知症デイサービス・定員12名」を事業所で運営していて、その他にも立川市内にあるシルバーピア(高齢者集合住宅)に配置される生活援助員事業の一部も担当しています。

高齢者が地域で安心して暮らせる街づくりを目指して、今後も地域に根ざした運営をしていますので宜しくお願い致します。(至誠柏ケアセンター センター長 鈴木伸行)

本部事務局だより

▶危機管理とリスク管理◀

リスク管理によく似た言葉に危機管理があります。この二つはどこが違うのでしょうか。

リスク管理とは前回お話ししたように、リターンを得るために取らなければならない不確実性の事です。例えば、事業を行っていくと火災が発生し損失を被るかもしれないリスクがある場合、発生の確率に比べ対策費が大きすぎれば、何もしない(リスクの容認)、ある程度費用をかけても見合うと判断できる場合はスプリンクラーの設置など対策する(リスクの低減)、あるいは火災保険に加入する(リスクの移転)など事前に対処するのがリスク管理です。

一方危機管理とは、火災が起こってしまった後、いち早く事業の危機的状態から脱出・回復を図るためにすべきことを検討しておくことなのです。つまり、危機管理の特徴は、危機が発生したときに「何をすれば災害やその影響を最小化できるか、早期回復のためには何をすればよいか」起こった後の対策をあらかじめ検討しておくことです。危機管理の要諦は「危機はいつか必ず起こる(大地震・大津波は必ず起こる、火事は必ず起こる)」という大前提に立つということです。「想定外」ということは危機管理が出来ていないということに事に他なりません。

(法人事務局 局長 野島忠幸)

<編集後>今年も残り3ヶ月となりました。何も出来なかった過ぎ去りし9か月に、例年通り、溜息ばかり...でも、年度で考えれば、折り返し地点を過ぎたばかり。そう自分に言い聞かせ、今年も自分を励ます今日この頃です(笑)